

マスギヤザリングと感染症

県感染症情報センター

声なき感染症を知る

◆68◆

「マスギヤザリング」とは、聞き慣れない言葉ですが、来年は代表的なマスギヤザリングである東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。今回は、感染症対策が必要とされるマスギヤザリングについてお話しします。

▽マスギヤザリングとは
マスギヤザリング (Mass Gathering) とは、日本集団災害医学会の定義によると、「一定の期間、制限された地域において、同一目的で集合した多人数の集団」です。オリンピックの他にも、宗教上の集まりのメッカ巡礼も国際的なマスギヤザリングですし、コンサートやパレードに集まった人々のほか、災害などで設置された避難所もマスギヤザリングになります。

▽マスギヤザリングでの感染症
地域や目的などから、マスギヤザリングの規模や特徴は違ってくると思いますが、いずれにしても多人数が集まる環境は人と人の距離が近いことから、感染症が流行しやすい状況になっています。例えばオリンピックのような国際的なイベントは世界中から人々が集まることから、国内には無い感染症が持ち

込まれる恐れと、逆に、国内で流行する感染症が国外からの参加者に感染し、帰国後に発症して、その国や地域でさらに拡大する恐れがあります。

▽代表的な事例
最近起こったマスギヤザリングでの事例としては、平成27年に山口県で開催された「第23回世界スカウトジャン

(ボーイスカウトなど) でした。北ス

コットランド隊とスウェーデン隊のスカウトが帰国中から帰国後に、髄膜炎菌性髄膜炎を発症しました。同時期に日本国内では患者の発生が無かったことから、海外から日本に持ち込まれた菌が、このスカウトジャンボリーで広がり、それぞれ帰国後に発症した、ということも考えられます。

▽2020年の東京オリンピック・パラリンピック大会
2020年東京オリンピック・パラリンピックでは、特にMERS (中東呼吸器症候群)、蚊媒介感染症 (蚊が拡

東京五輪などで懸念情報共有と対応が鍵

ボリー」における髄膜炎菌感染症の発生が挙げられます。髄膜炎菌感染症は、寮生活の学生などが感染することがある疾患で、感染しても無症状な場合もありますが、急速に進行し、髄膜炎を発生すると致死率が高く、非常に怖い感染症です。

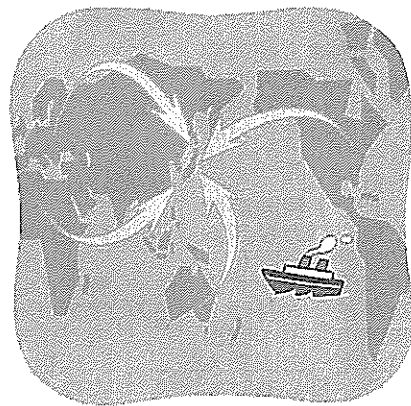
このスカウトジャンボリーは、世界162の国と地域から約3万人、日本から約6千人が参加した国際的なイベントで、参加者の中心は14〜17歳の若者

吸器症候群)、蚊媒介感染症 (蚊が拡げる病気であるデング熱、チクングニア熱、ジカウイルス感染症)、麻疹、風疹、髄膜炎菌感染症などの感染症の発生が懸念されています。

万一発生しても、小流行の時点で対策し、大流行を抑えることが重要となります。そのため、東京都では、些細な情報も共有するネットワークシステムの構築や多言語対応など、すでに対策が始まっています。

▽国際化する日常への対応
近年は海外からの渡航者も増えており、海外で流行する感染症に国内で感染することも増えてきました。平成26年の代々木公園におけるデング熱や同30年の沖縄県での麻疹 (はしか) の流行も、持ち込まれた (輸入された) ウイルスが発端です。

逆に、国内からの感染症の「輸出」としては、昨年から流行している風疹は、米国では妊娠中の女性に対して、日本への渡航を自粛するよう勧告しており、海外からは問題視されていることがわかります。



2020年東京オリンピック・パラリンピック大会では世界中から選手、観客が集まります。

(県感染症情報センター)